

会 議 要 録

名 称	第3回豊橋市ごみ減量推進検討委員会
日 時	平成23年11月18日（金） 午後2時から午後4時まで
場 所	豊橋市役所 東館12階 東128会議室
出席委員	笠倉忠夫委員長、荒木仁子副委員長、後藤尚弘委員、植村幸司委員、野亦真理子委員、安井広幸委員、河合節子委員
欠席委員	長崎正敏委員、布藤美紀委員、長田真理子委員
環 境 部 職 員	環境部長 伊庭雅裕、資源化センター所長兼施設課長 荻野見治、 環境政策課長 彦坂直邦、廃棄物対策課長 稲葉俊穂、業務課長 榎本貴一、 埋立処理課長 村田泰祥 環境政策課 課長補佐 荒川克己、減量推進グループ主査 大村信人、担当 後藤一紀
内 容	1. 委員長あいさつ 2. 市民アンケートの結果について 3. 豊橋市のごみ処理に関する取り組みについて （1）ごみ減量への経済的手法の検討 レジ袋有料化 （2）ごみ減量への経済的手法の検討 家庭ごみの有料化 （3）資源ごみのステーション収集の検討 （4）ビンカンボックスによるびん・カン回収の検討 4. その他

第3回豊橋市ごみ減量推進検討委員会会議録

日 時：平成23年11月18日（金） 14：00～16：00

場 所：市役所東館12階 東128会議室

司会：彦坂課長

○ 委員長あいさつ（笠倉委員長）

《議 事》

委員長：議題1「市民アンケートの結果」について、事務局から説明していただきます。

（事務局説明：後藤）

委員長：続いて、議題2「豊橋市のごみ処理に関する取り組み」について、まずは、（1）ごみ処理への経済的手法の検討 レジ袋有料化 について、事務局から概要を説明していただきます。

（事務局説明：大村主査）

委員長：アンケート調査の結果と、レジ袋有料化について、ご意見・ご質問はございませんか。

後藤委員：市民アンケートの結果によると、レジ袋の有料化に5割の人が反対だが、男女別・年齢別の結果はわかりますか？
特に、女性の意見が大きく反映されていると思う。

事務局：今回の資料では単純集計の結果を示しておりますが、男女別・年齢別のクロス集計も可能です。

委員長：次回までに示してください。

野亦委員：私の家では、レジ袋を積極的に有効活用している。普段の買い物も、レジ袋を無料で配ってくれる店を利用するようにしている。

植村委員：レジ袋をごみ出し時の内袋として利用している家庭は、全体としてかなり多いのではないか。

副委員長：豊橋市では、レジ袋をもらえることが当たり前になっており、市民感覚として、レジ袋について特段の意識がないのではないか。

レジ袋を無料で配ってくれることは、とてもありがたい。もしレジ袋が無くなったら、個別で買ってくるかもしれない。

浜松市では、1枚30円でした。他の町ではどのような状況ですか？

事務局：平成21年に県内市町村、全国中核市対象の調査をしましたが、レジ袋を有料化すると、スーパーでの受け取りはかなり減るようです。

野亦委員：買い物の時でもレジ袋は非常に役立っている。マイバッグだけでは不便を感じる時がある。

副委員長：マイバッグを使うことによって、万引きだと勘違いされることも考えられる。

河合委員：ごみの出し方は家庭によってまちまちだと思う。私は買い物の際にマイバッグを必ず持ち歩くようにしている。

ちなみに、田原市の店ではレジ袋の無料配布はしていない。豊橋市の場合、店によってバラバラなので、統一してほしい。

また、レジ袋の有料化とごみ減量がどうつながるのかわかりにくい。

副委員長：他の町がすんなりレジ袋有料化をできているのに、豊橋市はなぜできないのか疑問に思う。

事務局：豊橋市では、レジ袋をごみ出し袋に使うことができるので、その点も考えなければならないと思います。

安井委員：店舗で配布しているレジ袋は、すべて店の経費になっている。（大きなものは1枚10円）店の側からすると、レジ袋の有料化には大賛成。ただ、一つの店舗だけで有料化をすると、お客さんが疎遠してしまうので、実施するのなら地域内の店舗と足並みをそろえて行いたい。また、レジ袋がなくなると本当にごみが減るのか？といった疑問がある。結局ごみ出し袋として使用されれば、ごみの量（レジ袋）は変わらないのではないか。

後藤委員：有料化するとレジ袋がどのくらい減り、それがごみの減量にどうつながるのか、具体的なデータを示して市民に啓発したほうがいい。

委員長：常滑市では、このあたりはあまり議論にならずに、すんなり有料化を実施できていた。

今後も議論をしていきたい。

委員長：次に、(2) ごみ処理への経済的手法の検討 家庭ごみの有料化 について、事務局から概要を説明していただきます。

(事務局説明：大村主査)

委員長：ただいま説明がありました家庭ごみの有料化について、ご意見・ご質問はございませんか。

後藤委員：家庭ごみを有料化する場合、ごみ袋1枚の値段をどのくらいで見ているのか？

また、各世帯がどのくらい負担するのか？ どのくらい市の収入として入るのか？ どのくらいごみが減るのか？ そのあたりを試算して示したほうがいい。

事務局：ごみ袋の値段は自治体によってまちまちですが、大袋の値段は1枚50円前後が多くなっています。

委員長：有料化を導入している自治体の結果を見ると、家庭ごみを有料化すると、翌年度のごみの量は10%～20%減っている。

植村委員：アンケート調査の結果では、「有料化してもごみの量は減らない」の回答が多いが、有料化を実施すると、本当にごみが減るのか不安に思う。

安井委員：実際の生活では、「必要なもの以外がごみ」というイメージがある。有料化で減った10%～20%のごみはどこに行くのか？

委員長：大部分はリサイクルに回っていると思われます。

植村委員：有料化をすると、他のごみへの混入が心配される。地域資源回収だと回収の頻度の地域差が大きいため、混入を防ぐには定期的に資源を回収する仕組みが必要。

植村委員：「もやすごみ」の中で多いのは何か？

事務局：組成分析調査の結果ですが、①生ごみ（４０％）、②紙ごみ（３０％）、
③木くず（２０％）です。

植村委員：これら上位のものはまだまだ減らせる可能性がありますね。

野亦委員：家庭ごみの有料化を導入すると、絶対的な家計負担が増えるので、慎重
に進めてほしい。“〇〇がやっているから”といった、周りの雰囲気流
されることのないようにしてほしい。

委員長：行政の立場からすると、“お金がかかるから、考えるようになり、ごみ
が減る”という効果があると思います。

副委員長：負担がすべて市民にくるというイメージがあります。市民に向けては、
「お金を払っていいんだ」という具体的なイメージが必要。そのあたり
を説明せずに有料化をすると、「有料だから（一つの袋に）詰め込んでし
まえ」と考えられてしまう可能性もある。「有料化＝ごみ減量」を説得力
のある形で示してほしい。

植村委員：どうしてここまでしなければならないのかという理由を説得力のあるも
ので示してほしい。

豊橋市は、素晴らしいものを持っているが、PRが下手だと思います。

副委員長：前回、施設見学会でリサイクル工房を見学したが、あの技術はすばらし
い。ああいったものは残していかなければいけないが、担い手が少ない
のではないか？もっと若者を活用してほしい。

委員長：PRや説得の仕方がうまくいっていないようなので、これらのことを今
後よく考えてください。

委員長：次に、（３）資源ごみのステーション収集の検討について、事務局から概要を説明していただきます。

（事務局説明：大村主査）

委員長：ただいま説明がありました資源ごみのステーション収集の検討について、ご意見・ご質問はございませんか。

植村委員：飯村校区では、地域資源回収を月に２回行っている。ごみステーションを持ち出し場所として活用しているが、古紙がかなり出されている。なので、古紙が「もやすごみ」に出されることは少ないはず。今後、古紙の収集は、全市的に行政が行うことを考えているのか？

環境部長：自治会によって地域資源回収の取り組みに差があるが、基本的には自治会主導でやってもらいたいと考えています。

植村委員：自治会が地域資源回収を行うことによって、自治会として収入を得ることができる。飯村校区の場合、３，２００世帯で年間２００万円以上の収入がある。地域資源回収で得たお金は、校区の小中学校の活動に分配しています。

委員長：地域資源回収の日まで古紙を家庭内に溜めておく必要があるから大変だと思います。回収が月に２回くらいあれば、溜まらなくてすむ。私の地元でも自治会が古紙の収集をしている。

荒木委員：他の自治会でも地域資源回収の有効活用を積極的に話し合い、資源回収をもっと進めていくほうが良いと思う。

環境部長：基本的には自治会主導の地域資源回収が望ましいと考えています。古紙の売却で得た収入も自治会に入り、地元還元されるのでよい。

委員長：次に、（４）ビンカンボックスによるびん・カン回収の検討 について、事務局から概要を説明していただきます。

（事務局説明：大村主査）

野亦委員：ビンカンボックスから抜き取られたものについて、業者が買取らないようにすることはできないか？

業務課長：聞き取り調査の結果だと、買取業者は市内に３つありますが、持ち込んだ人の生活の糧になっているので、業者の側も断ることは難しいようです。業者が買取することで生活困窮者の収入になり、結果として他の犯罪の防止になっているという側面もあります。

ただ、ビンカンボックスの近くに住んでいる人からは苦情があります。

副委員長：ビンカンボックスのような（常設の専用回収容器）ものは他都市には少ないのではないかと。

業務課長：企業が自社の敷地内に回収容器を設ける例はありますが、自治体が家庭からの回収を前提として設置している例はないのではないかと。

安井委員：抜き取りによる金額的な損失はどのくらいか？

業務課長：アルミ缶の買取単価を１kg 当たり８０円とすると、年間５００万円くらいではないかと。

後藤委員：名古屋市は週１回カン類の回収があるが、持ち去りが多い。

植村委員：今はアルミ缶だけだが、古紙も買取価格が上がれば持って行かれるのではないかと。

野亦委員：「こわすごみ」も持ち去られている。

業務課長：ビンカンボックスの設置には（市内全基で）３億円程度の費用がかかっている。抜き取り防止装置も１基当たり１万円かかり、維持管理や台風時の被害なども考えると、マイナス面もあります。

委員長：ビンカンボックスは、アンケートを見てもかなり支持されている回収制度のようです。

委員長：最後に、（５）その他の取り組みについて、事務局から概要を説明していただきます。

（事務局：豊橋市廃棄物総合計画の取り組みを例に、委員の発案で議題とする取り組みがあれば、今後検討していくことを説明）

委員長：本日の議題はこれで終了とさせていただきます。

○ その他

- ・ 植木鉢を利用した生ごみ処理の情報提供
- ・ 今後の予定（次回の委員会は２月２２日（水）午前１０時開催に決定）